

福岡県のサッカー女子審判員普及の取り組み

著者	木下 温子
雑誌名	九州国際大学教養研究
巻	28
号	1
ページ	1-13
発行年	2021-07-28
URL	http://id.nii.ac.jp/1265/00000759/

福岡県のサッカー女子審判員普及の取り組み

木 下 温 子

1. はじめに

2011年になでしこジャパン（日本女子代表）がFIFA女子ワールドカップドイツ大会で優勝、2012年ロンドンオリンピック女子サッカー競技準優勝を果たし、女子サッカーの認知度は向上した。これらは、以前より公益財団法人日本サッカー協会（以下、JFA：Japan Football Association）技術委員会は「三位一体+普及」とし、それぞれが日本サッカーの強化・育成のために一体となって同じ方向を向いて短・中・長期的取組を推進していくことが不可欠という概念のもと取り組んできた成果ともいえる。「三位一体」とは、①代表強化、②ユース（若年層）育成、③指導者養成という三つの部門が同じ知識・情報を持ち、より密接な関係を保ちながら、選手の強化育成と日本サッカーのレベルアップを図るというシステムのことで、これらをすべて統合して向上していくことを指すことである。また、「普及」とは、2002年FIFAワールドカップ以降、④普及の重要性に着目し、キッズプログラムなど様々な取り組みによりグラスルーツを行っていることである⁽¹⁾。女子サッカーにおいて、10年が経過した現在でも男子の登録選手の4.8%に過ぎず、2030年には200,000人、10.0%を目指すことを「なでしこ vision」重点目標として掲げており、サッカー人口を拡大するための「普及」は重要である⁽²⁾。また、全国47都道府県では実情が異なることから、2017年度より女子サッカー（なでしこ）普及コーディネーター（以下、普及C）が配置された。これは、各サッカー協会の独自性や状況を考慮した普及

策を立案・実行していくほか、女子委員会やナショナルトレセンコーチなどと情報共有し、関係者とのネットワークを構築していくなど、女子サッカーの普及活動の調整役となる⁽³⁾。女子委員会の普及C研修会においての内容は選手や指導者に関する情報は各都道府県の細かな情報も提供され、現状や課題を抽出することができるが、審判員に対しての情報は少ないため、現状、課題が漠然としたままである。そこで今回は、福岡県の女子審判員の現状と取り組み、課題を抽出し、女子サッカーの発展に寄与することを目的とした。

2. 福岡県女子サッカー登録選手数と登録チーム数

図1は、女子2008年度から2020年度における福岡県女子サッカー登録選手数である⁽⁴⁾。FIFA女子ワールドカップ優勝(2011年3月)後となる2011年度より登録選手数は増加している。(但し、JFAによると2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により活動制限、公式戦の中止や延期により登録数が減少したとしている。)図2は、2019年度福岡県年齢別女子選手数である。小学生年代(U-12)の選手登録数が年齢別の中で最も多いが、中学生年代(12歳から14歳)の登録数選手数は減少し、高校生年代(15歳から17歳)での登録選手数は再び増加している。このような中学生年代での谷をつくる形は、全国的な傾向と同様である。今後は、2022年度国民体育大会(第77回栃木大会)より少年女子(U-16:中学3年~高校2年の早生まれ)が正式種目として採用されるため、登録選手の増加が期待されている。図3は、2014年から2020年度における女子区分チーム数である。2014年からは福岡県の登録チーム数は30チーム前後で推移しており、そのうち高校のチームが約半数を占めている。2008年度に全国高等学校体育連盟にサッカー部門に「女子部」が設定され、2012年全国高等学校総合体育大会(通称、インターハイ)の正式競技となり、夏はインターハイ、冬は高校選手権大会という活動環境が整ったこともあり、福岡県においては、2011年度、2012年度、2013年度にそれぞれ1チーム、2014年度4チーム、2015

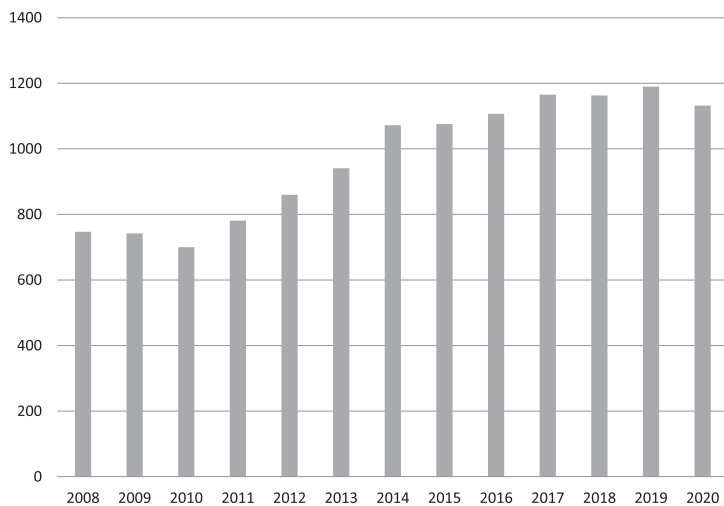


図1. 福岡県登録女子選手数(2020年登録分析データ JFA 普及C研修会資料より引用)

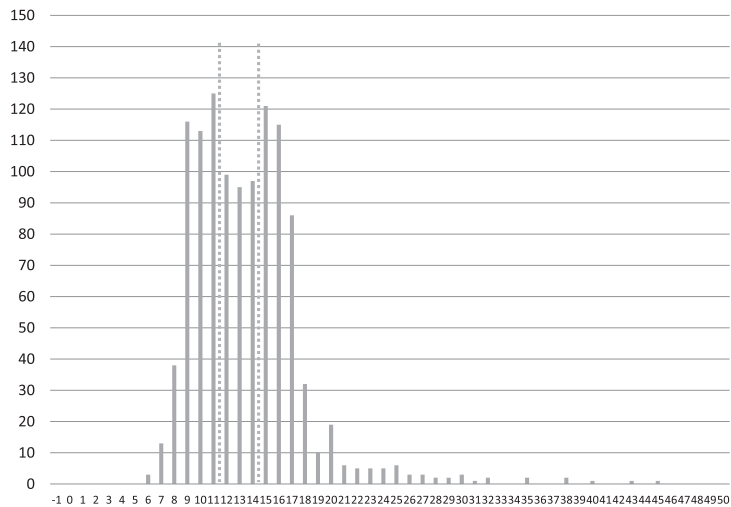


図2. 2019年度年齢別女子選手数(JFA 普及C研修会資料より引用)

福岡県のサッカー女子審判員普及の取り組み

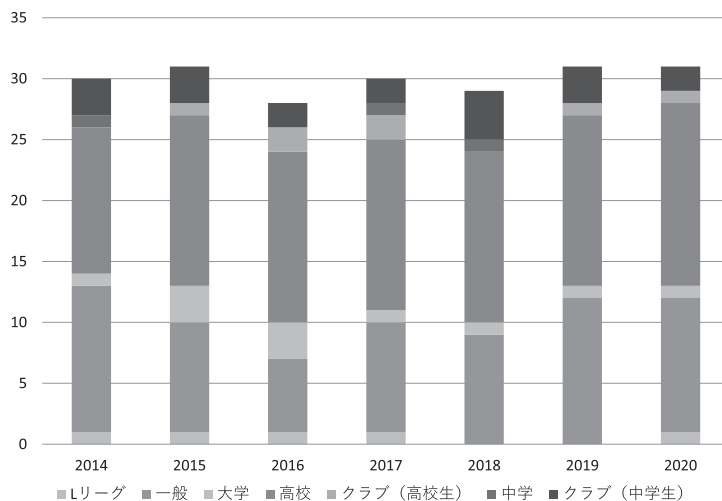


図3. 福岡県女子区分チーム数 (JFA 普及C 研修会資料より引用)

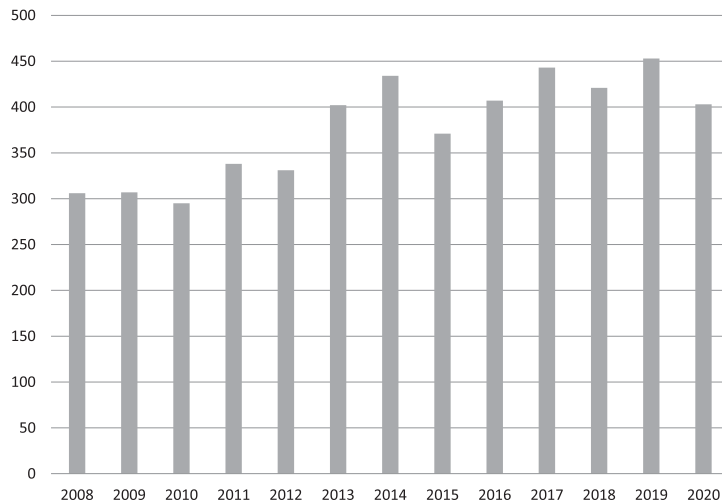


図4. 2019年度福岡県女子小学生数 (JFA 普及C 研修会資料より引用)

年2チーム、2017年1チーム、2020年1チームの高校が部活動として創部し、新規チームとして登録している。その他のカテゴリーにおいては、2012年にクラブ(中学)が1チーム登録、2013年、2014年、2017年、2019年、2020年にそれぞれ1チーム、合計5チームが「一般」として登録している。5チーム中4チームはU-15年代の選手は在籍しているものの、中学生年代のチームとしての受け皿が少ないため、中学校の他種目の部活動に変更するものも多く、生年代の登録選手数の減少している。図4は、2008年度から2020年度における福岡県女子サッカー小学生登録選手数である。2019年9月に理事会での決定により、2014年4月に「第4種」登録への移行が始まり、2015年より完全移行することとなった。それまでは、U-12年代は男子が「第4種」、女子は「女子」(女子チームでプレーする場合)、もしくは「第4種」(男女混合のチームでプレーする場合)で登録が区分されていた。男女を問わず「第4種」への登録変更は、女子に身近な受け皿を増やすことを目的としていたが、増加の傾向がみられ一定の効果があったとみられている⁽⁵⁾。また、2013年11月より女子サッカーの普及事業として「JFA なでしこひろば」をスタートした。これは、年齢、経験を問わずサッカーを生活圏で気軽に始めたり、サッカーをやりたいと思いがちからチームには所属していない女子が安心して楽しめたりする環境を定期的に提供するもので、JFAより認定を受けた団体や施設が運営している。福岡県内の「なでしこひろば」認定は2019年度11団体が認定を受け活動を行っている⁽⁶⁾。

3. 福岡県サッカー女子審判員の推移

サッカーの試合の審判を務めるには資格は必要となり、4級、3級、2級、女子1級、1級と分けられ、それぞれの技能により競技会の担当できる試合が異なっている⁽⁷⁾。資格の有効期限は当該年度の1年間(4月1日～3月31日)であり、認定月日より当該年度の年度末まで有効となる。翌年継続して活動するためには、更新講習会を受講が必要となる。4級、3級は都道府県にて講習会

を受講し審判登録料を支払うことが必要となる⁽⁸⁾。なお、都道府県により受講方法は異なる。

福岡県の場合、新規4級サッカー審判講習会(以下、新規4級)は集合型での講義を3時間30分以上受講すれば合格し4級が取得できる。集合型の場合、定員が100~200名と設定され、大会場、大人数で設定されている⁽⁹⁾。3級審判員になるためには、男女共の集合型で昇級試験が行われ、筆記試験(競技規則100点中70点以上)、体力試験(インターバル走75mを20秒内で走り、25mを25秒以内で移動を32セット)に合格すれば、別途、実技試験(自分自身で試験対象試合を設定、審判インストラクターを手配することが必要)を1年間のうちに受け、合格すれば3級が取得できる⁽¹⁰⁾。(但し、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、特例措置として、新規4級は全てJFAラーニングとなり、3級昇級試験はと中止となった。)

継続した活動を行うための更新講習会は、4級は集合型講習会または、JFAラーニング(2009年度より開始)を受講することにより更新することができる。3級は集合型講習会またはJFAラーニング(2017年度よりJFAラーニングの計画はあるも、2019年度より開始)により更新することができる⁽¹¹⁾。

図5は、2006年から2020年までの福岡県女子審判員の登録人数の推移である⁽¹²⁾。2006年度は59名(2級3名、3級13名)、2007年度90名(2級2名、3級15名、4級73名)、2008年度70名(2級1名、3級15名、4級54名)と100名満たない登録数であったが、2009年度に148名(2級2名、3級14名、4級132名)と大幅に増加した。これは4級更新の方法にJFAラーニングが導入された時期と重なるため、JFAラーニング利用者が増加したと考えられる。さらに、2016年度330名(女子1級1名、2級4名、3級8名、4級317名)と急増した。2016年度は、女子登録選手、登録チームも増加している時期であるが、女子登録選手・女子登録チームに限定した新規4級サッカー講習会(集合型)を始めて導入した時期でも。新規4級を受講する場合、大会場で大人数の集合型の講習会を受講する必要があった。講習会の多くは男性の受講者であり、受講者の中

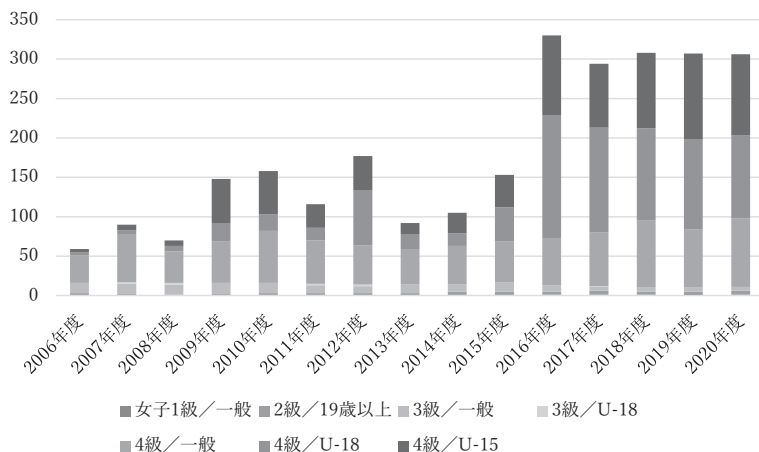


図5. 福岡県サッカー女子審判員登録数 (福岡県サッカー協会登録データより)

で女子が数名であることも多く、居心地が悪く、受講し辛いという声が挙がっていた。そこで女子に限定した講習会や、20名以上の受講者と会場が揃えば講師が派遣ですることにより、講習会を受講しやすくなったことが考えられる。但し、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大予防により、特例措置として新規4級は全てJFA ラーニングで行われた。(例年通りの登録数が見られた。)このように2016年度以降、女子限定の講習会開催により4級登録者数は一般、U-18、U-15と増加し、一定の成果を上げることができた。しかし、3級以上の取得者が増加しないことが課題でもあった。

4. 女子審判員の普及・育成の取り組み

女子審判員については、福岡県の課題のみではなく全国的な課題でもある。コロナ禍であるため、JFA、地域、都道府県サッカー協会のほとんどの会議などが集合型からリモートでの開催に変更された。これにより2019年度は各都道府県審判委員長1名が日本サッカー協会に集合型で参加していた意見交換会

に多くの関係者が参加することができた。第2回都道府県女子審判員に関する意見交換会(テーマ:普及)2020年11月26日(または、11月29日)に開催、第2回都道府県女子審判員に関する意見交換会(テーマ:育成)12月10日(または12月3日)が開催された。福岡県サッカー協会審判委員会からは、審判委員長、女子部長、委員3名、女子委員長の6名が参加した。

福岡県としては、2020年度福岡県サッカー協会審判委員会において「女子審判員の普及・育成」が重点課題のひとつとして挙げており、4級登録者は増加したものの、3級登録者が少ないことが課題として臨んだ。意見交換会の中では、福岡県の3級昇級試験方法はかなり複雑であることはわかり、他都道府県では、筆記、体力、実技を行っている例は少なく、フェスティバルなどで設定された試合での審判インストラクターから合格を受ければ3級昇級、または、数試合をノルマとし主審の経験をすれば合格など、身近なところでの3級昇級の例があった。勿論、試合を公平にさばく審判員であるための技量が必要ではあるが、福岡県の現状の3級昇級試験の方法では、受験しようとする意欲を持たせることも難しく、審判員の増加は難しいと想像できる。女子審判員の普及・育成のためには、まず、今後の3級昇級試験方法の変更を検討することが必要であるということで2回の意見交換会を終えた。

また、地域・都道府県審判フォーラムが「女子審判員の認知度アップと普及について」というテーマで2021年6月6日にリモートで開催された。これも毎年、各地域・都道府県FAの審判委員長1名が日本サッカー協会に集合型で参加していたものであるが、コロナ禍において多くの関係者が参加することとなった。九州サッカー協会審判委員会においても、女子サッカーの普及に伴い、女子審判員の育成・強化が急務となっており、育成方法の検討が行われた。

このように急務となった背景には、2005年12月15日「公式試合における審判員の資格」についての通達では、「公式試合における審判活動は、基本規定により本協会に登録している審判員以外の者が行うことができない。今後、これに反した場合は無効試合とする。」とし、各都道府県協会、審判委員会と各種連盟

との連携のもと、公式試合への登録審判員の割当および派遣が適切に図られるよう徹底するよう確認されていた⁽¹³⁾。しかし、2005年当時、女子サッカーの認知は低く、女子がサッカーは稀なスポーツであったこともあり、特に「女子」関する文言は入っていない。2011年以降、女子サッカーの普及が急激に進んだことから、大会、リーグ数も増し、審判員の育成が急務となったと言える。

5. 『JFA 女子サッカーデー』における女子審判普及・育成事業

JFA は2019年5月の理事会で、国際連合が定める国際女性デー^(注1)に合わせて毎年3月8日を「JFA 女子サッカーデー」⁽¹⁴⁾に定めた。2020年度からの新設事業は、各都道府県サッカー協会に対し JFA が交付している補助金事業の充当必須事業として日本全国の女子サッカーが普及・発展するきっかけづくりとして、2021年1月1日から2021年3月31日までに実施することと定めた。JFA 公式ホームページ女子サッカーデー特設ページでは、『世界でいちばんフェアな国になろう JFA 女子サッカーデー 3.8』とし、3月8日の「国際女性デー」を「女子サッカーデー」と位置づけ、誰もがサッカーを楽しめて、誰もが輝ける社会の実現をめざします。と掲げている。また、ロゴにはモザミの花があしらわれ、各都道府県サッカー協会にはバナーが送付され事業開催には会場に掲げ、事業の象徴としている。

福岡県では「JFA 女子サッカーデー」を開催するにあたり、当初はウォーキングサッカーやミニサッカーコートでのゲームを企画し、幼児、児童などの子どもたち、サッカー未経験者の女性、以前サッカーをしていたが現在はサッカーから離れている女性などをターゲットとし、いわゆるレクリエーションレベルでのサッカーイベントを計画していた。しかし、コロナ禍において不特定多数の参加者を募ることは安全安心を担保できないとし、企画の変更を検討していた。参加者を特定でき、少人数で、女子サッカーの普及・発展するきっかけとなる『世界でいちばんフェアな国になろう』のコンセプトこそ、審判員に

着目することとした。そこで、JFA 女子サッカーデーの事業を開催する時期に開催される「福岡市長杯女子サッカー大会」^(注2)を用いて、1つ目は大会に参加した選手全員が関わるように、競技規則・審判クイズ、2つ目は女子を対象としたサッカー3級審判昇級試験を行った。

競技規則・審判クイズは、会場に問題と解答を張り出し、自己採点できる簡単な方法で興味・関心をもつきっかけとなるようにした。

3級昇級試験は、受験希望者に事前にリモート研修1回、実技試験を福岡市長杯女子サッカー大会で行うこととした。受験者は7名(社会人2名、大学生3名、中学生2名)であったが、コロナ禍での大学側の活動制限がかかり1名は実技試験に参加できず、大学生1名は登録不備があったため不合格となったが、新たに5名が3級昇級となった。

6. 女子審判員の今後

2021年9月21日に日本初の女性プロサッカーリーグ『WE. リーグ』開幕する⁽¹⁵⁾。「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」とことを理念としており、リーグを核に関わるみんな(WE)が主人公として活躍する社会を目指すことが掲げられ、女子審判員としての活躍の場が広がることになる。全国11チームでスタートするが、本リーグに九州・福岡県のチームは所属していない。プロリーグの審判員として担当するためには上級審判員となる必要があるため、WEリーグが遠い存在ではなく、女性活躍の機会を広げるためにも育成を行う必要がある。

2022年国民体育大会(以下、国体)サッカー競技少年女子が正式種目となり、成年男子と女子は隔年開催に変更される。2023年鹿児島国体(当初は2020年開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期)、2024年佐賀国体では少年女子、女子の2カテゴリーの大会が開催、さらに2026年宮崎国体が開

催される。国体の副審には地域の2級審判員が割り当てられるため、2級以上の審判員が必要となる。まずは3級登録者の増員、さらには上級審判員の育成が急務となっている。

2021年5月16日明治安田生命J3リーグ第8節 Y.S.C.C 横浜対テゲバジャーロ宮崎の試合で、山下良美主審が女性審判員として初めてJリーグの主審を担当した。女性で初めてJリーグ担当審判員の一人となり、女性が活躍する場をひとつ開拓したことになる⁽¹⁶⁾。

7. まとめ

女子審判員を増加させるためには、講習会や昇級試験の開催方法の改善が必要であると考えられる。女子が興味関心を持ち、挑戦しやすい環境を整えることが必要である。女子選手、チームが増加し、大会、リーグが増加すれば、必然的に審判員が必要となる。女子の大会は女子で行う義務はないが、女性が活躍できる場が増えている。活躍の場の発信、提供ができるような環境整備も必要である。

注

注1、国際女性デー

1975年に国際婦人年に当たるこの年、国連は3月8日に「国際女性の日」を記念することを始めた⁽¹⁷⁾。2002年にはじめて国内の国連組織が「国連の日として」3月8日に女性デーの集まりをもったとされ、以降、「国際女性デー」と呼ばれている⁽¹⁸⁾。

注2、福岡市長杯女子サッカー大会

福岡市、福岡市教育委員会、公益財団法人福岡市スポーツ協会などが主催する市民総合スポーツ大会サッカー競技のひとつ。大会の趣旨としては、市民スポーツの普及・振興を図り市民のスポーツへの関心と参加意識を高めるため、市民総合スポーツ大会として開催される。大会主管は福岡市サッカー協会とし、

企画・運営している。参加資格として、原則として市内に居住する者及び通勤・通学する者とされ、女子サッカー競技においては中学生以上としていたが、2015年度第17回大会より JFA 選手登録は問わない、2017年度第19回大会より保護者の承諾書があれば小学5年生以上の参加可能、2018年度第20回大会より普及・振興のための大会と位置付けるため市外からの参加可能とし、2020年度で22回を迎えている。

参考文献・引用文献

- 1) 選手育成のコンセプト | 選手育成 | JFA | 日本サッカー協会 (閲覧日2021年5月30日)
- 2) なでしこ vision | JFA (閲覧日2021年5月30日)
- 3) 日本サッカー協会 女子サッカーの可能性 JFA news No. 399p 3-7 2017年7月号
- 4) 2021年度普及コーディネーター研修会資料 都道府県別登録データ 福岡県
- 5) 日本サッカー協会 普及と育成環境の改革 JFA news No. 399p 9-11 2017年7月号 (
- 6) JFA なでしこひろば | JFA | 公益財団法人日本サッカー協会 (閲覧日2021年5月30日)
- 7) 審判制度概要 | 審判 | JFA | 日本サッカー協会 (閲覧日2021年6月5日)
- 8) 審判登録制度 | 審判 | JFA | 日本サッカー協会 (閲覧日2021年6月5日)
- 9) 新規4級審判員資格取得講習会のご案内 福岡県サッカー協会 (閲覧日2021年5月20日)
- 10) サッカー3級審判員(男子・女子共)への昇級試験(筆記・体力)日程のご難内 (閲覧日2021年5月20日)
- 11) 福岡県サッカー協会 2017年、2018年、2019年度事業計画書・報告書
- 12) 福岡県サッカー協会 2006年～2020年 女子審判員登録数データ
- 13) 日本サッカー協会審判委員長「公式試合における審判員の資格」について (通達) 2005年12月15日
- 14) JFA 女子サッカーデー2020 | JFA | 公益財団法人日本サッカー協会 (閲覧日2021年4月25日)
- 15) 日本女子プロサッカーリーグ設立について | JFA | 公益財団法人日本サッカー協会 (閲覧日2021年6月4日)

- 16) 山下良美審判員が女性審判員として初めてJリーグの主審を担当 | JFA | 公益財団法人日本サッカー協会 (閲覧日2021年6月3日)
- 17) 国際女性の日(3月8日)制定に至る歴史とは | 国連広報センター (unic.or.jp) (閲覧日2021年4月25)
- 18) 伊藤せつ 国際女性デーは大河のように 御茶の水書房 2003年